自然と文化科　活動記録　（公開講演会）

日時	２０２５年4月１８日（金）　１０：００～１５：００	担　当　者
場所	クロスパル高槻　　午前：公開講演会　８階イベントホール 午後：各委員会、全体会議、班会議、運営委員会等	玉尾　洋一
備考	参加人数　１班１８名　2班２０名　3班１８名　4班１６名　外部６名　　合計７８名	

１．講演のテーマ：「奈良と水銀」

２．講演者名：奈良教育大学教授 渡邊伸一先生

３．講演者略歴：新潟県生まれ。63歳。専攻は社会学。大学と大学院時代を関東で過ごす。最初の勤務地は大分県。その後、奈良教育大学に勤務して四半世紀。これまでは公害・環境問題を中心に研究してきたが、現在は、それをベースに、主に水銀・シカ・怨霊に着目した独自の視点から、奈良の歴史文化を探求している。

４．講演要旨　・・・奈良の歴史文化と水銀とは深い関わりがある

東大寺には752年から今日まで途絶えることなく、毎年３月、11人の修行僧「練行衆」が本尊の十一面観音菩薩に懺悔し、人々の幸福を願う「修二会」という行が行われている。行法の一つに「お水取り」があり、それは「若狭井」という井戸から「お香水」をくみ上げる一部非公開の儀式だ。なぜ「お水取り」が行われるようになったか？その伝承が水銀と関わってくる。

・東大寺の伝承では、神名帳により勧請した時に遠敷明神が魚釣りをしていて、参上するのが遅れたお詫びに、観音様にお香水を差し上げると約束して、毎年することになった。とあるが、実は盧舎那仏の完成が開眼供養に間に合わないことを示唆している。

・当時の盧舎那仏は金メッキされていたが、その製造は金と水銀を混ぜた合金を塗り、水銀を蒸発させる方法で行われていた。しかし水銀が間に合わなかったため、752年の開眼供養には仏顔しかメッキできなかった。

・なぜ遠敷明神か？この説を唱える人たちの前提には「丹生（にう）水銀説」がある。「丹生水銀説」（以下「水銀説」と略）とは、水銀やその原鉱である辰砂（しんしゃ）が産出する地域には丹生地名や丹生神社が存在する場合が多く、丹生とは水銀や辰砂の産出を意味するから、丹生神社の祭神は水銀を掌る神のことだとする説。若狭の遠敷川流域でもかつて辰砂が採れ、遠敷の地は昔は「小丹生（おにゅう）」と呼ばれていたのであり、「水銀説」によれば、遠敷明神も水銀を掌る神ということになる。

５．写真

渡邊教授

盧舎那仏

辰砂

閼伽井屋

６．所感

閼伽井屋の前の岩に、遠敷明神が一喝すると、岩が割れ白と黒の鵜が飛び出て、お香水がコンコンと湧き出た！と、今迄説明してきたのが、お香水＝水銀と拝聴し、目が点になりました。しかし遅刻した遠敷明神のお詫びの方がロマンがあり、これからも従来説でガイドして行きたい。